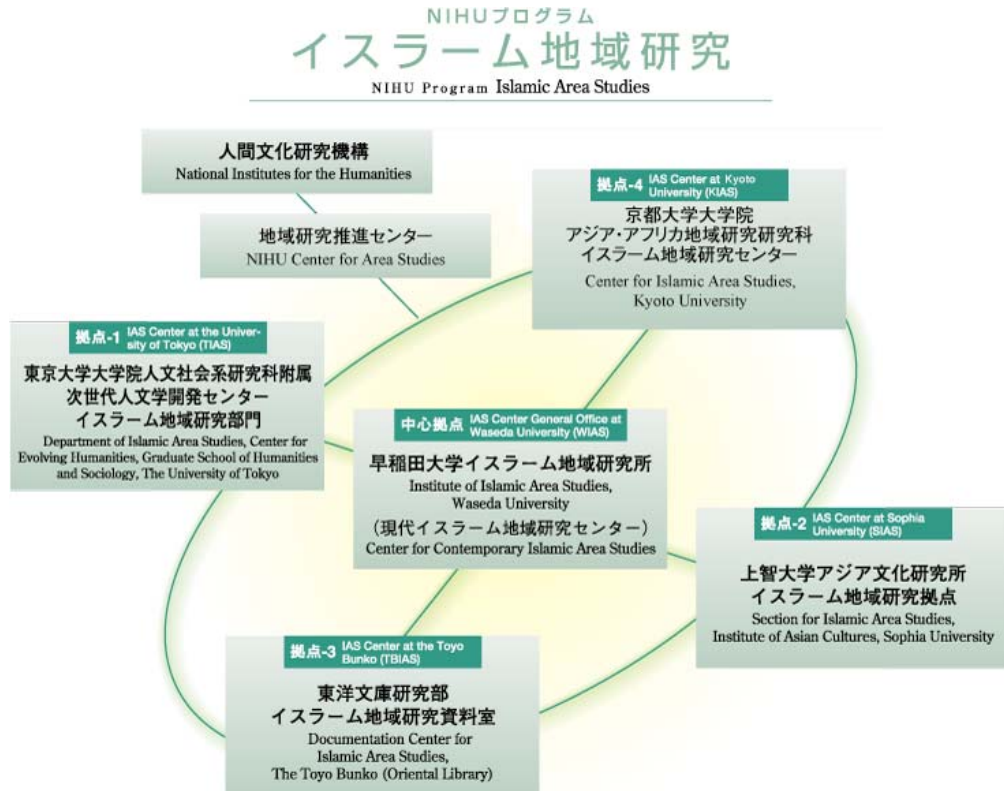


識別番号 L 2
研究課題 イスラーム研究の課題と展望
研究代表者 私市正年（アジア文化研究所）
共同研究者 川島緑、赤堀雅幸、高橋圭
Summary



Organization and Aims

As we entered the 21st century, the attacks of September 11, 2001 marked the first in a series of grave events which shook the world. This was soon followed by the US and UK raids which brought about the fall of the Taliban regime in December the same year, and later the Hussein regime in April 2003. At the root of these crises and disputes lie the globalization and intensification of Islam. In order to correctly understand the direction of global affairs in the 21st century as well as concerns such as oil supply and regional conflicts, it is crucial that we first accept this new reality, then, by means of interdisciplinary research, shed light on the relationship between Islam and societies worldwide. In this program, we will continue to develop the groundwork laid by the previous Islamic Area Studies Project (1997-2002) in order to create centers for Islamic research and education in Japan. The aims shared by each

of the five research centers are as follows:

1. To implement international joint research projects with scholars from regions around the world. Through examining the relationship between Islam and a given region through the eyes of both the native and the "Other", we will construct a demonstrative system of knowledge on the contemporary Islamic world, and delve deeper into this insight. Moreover, over time, we will develop research methods meeting the unique needs of Islamic area studies.
2. To collect and prepare for use documents which will serve as the basis for research at each IAS Center; to manage the Arabic language database developed as part of the previous Islamic Area Studies Project (1997-2002); to incorporate accumulated source materials into a database; to disseminate information and to promote the availability of historic information both nationally and internationally. At the same time, we will pursue the research of source materials in order to develop bibliographical studies on Islamic history and culture.
3. To help enrich Islamic area studies at the graduate level, as well as provide active support for young scholars from Japan and abroad to participate in Islamic Area Studies. We will also foster the next generation of Islamic studies scholars through encouraging their participation in international projects.

Research Topics

Contemporary Islam is presently faced with numerous issues-some shared by various cultures across geographic boundaries, and others closely linked with local identity, culture, and history. At Islamic Area Studies, we will take a holistic approach to researching these two aspects, collecting source materials while also looking at topics such as Islamic knowledge and civilization; religion, thought and political movements; society and culture; Islamic international organizations, and the research of Islamic documents and bibliography. We will focus on areas including not only the Middle East, North Africa, Central Asia, South and Southeast Asia, but also Africa, Europe, China, the Americas, as well as Japan, as needed.

Organization and Research Subjects

With the Institute of Islamic Area Studies at Waseda University serving as the General Office for IAS, the project consists of a network of four centers consisting of the Graduate School of Humanities and Sociology of the University of Tokyo, the Institute of Asian Cultures at Sophia University, The Toyo Bunko (Oriental Library), and the Graduate School of Asian and African Area Studies at Kyoto University, in conjunction with the National Institutes for the Humanities.

The research topics covered by each IAS Center are as follows:

IAS Center at Sophia University (SIAS)

(Section for Islamic Area Studies, Institute of Asian Cultures, Sophia University)

Research Theme: Societies and Cultures in the Islamic World

Director: KISAICHI Masatoshi

The IAS Center consists of three research groups: Group 1, “Islamism, Social Movement, and Popular Movement” ; Group 2, “Development of Islam in Southeast Asia” ; and Group 3, “Sufism and Popular Islam” . Group 1 reassesses Islamism as a social movement through demonstrative research on the individual constituents of Islamism and its descent into terrorism since the 1990’s. Group 2 analyzes and researches Jawi documents insight on the spread, permeation and development of Islam in Southeast Asia from the people’s viewpoint. Considering saint veneration, Sufism, tariqa and veneration for the Prophet’s descendants as a multifaceted complex, group 3 makes a study of the topic from an interdisciplinary approach involving historians, anthropologists, and students of Islamic thought.

IAS Center General Office at Waseda University (WIAS)

Research Theme: Knowledge and Civilization of Islam

Director: SATO Tsugitaka

IAS Center at the University of Tokyo (TIAS)

Research Theme: Thought and Politics in Islamic

Areas-Comparison and Relations

Director: KOMATSU Hisao

IAS Center at the Toyo Bunko (Oriental Library) (TBIAS)

Research Theme: Constructing a System of Collecting and
Studying Source Materials for Islamic Area Studies
Director: MIURA Toru

IAS Center at Kyoto University (KIAS)

Research Theme: International Organizations/Institutions in
the Islamic World
Director: KOSUGI Yasushi

1. 目的及び背景

本報告は、人間文化研究機構（N I H U）による「イスラーム地域研究」プログラムの研究活動の中間報告である。本プログラムは、わが国にフランスのC N R Sになったイスラーム地域研究の拠点形成を構築することを目的として、上智大学、早稲田大学、東京大学、京都大学、東洋文庫の5大学・研究機関が拠点として指定された。研究プログラムは2006年4月より開始され、第一期は2011年3月までの5年間で予定されている。

上智大学では、研究機構内の常設研究所であるアジア文化研究所内に、イスラーム地域研究拠点を設置し、活動を行っている。将来的には上智大学研究機構イスラーム地域研究部門として位置づけ直されることも視野に入れている。

2. 研究の基本理念と手法

本学は、キリスト教ヒューマニズムに基づく、東西文化交流を建学の精神に掲げている。キリスト教文化が、歴史的にイスラームやユダヤ教と密接に関わりながら発展してきたことは言うまでもないが、グローバル化の過程で、三つの宗教・文明の関係は、宗教、文化、政治、経済、環境などきわめて複雑になりつつある。とくに、「9・11」テロ事件後、イスラームをめぐる諸問題は、欧米のキリスト教社会との緊張・摩擦を昂じさせ、イスラーム諸国だけでなく、欧米や日本を巻き込む地球的課題になった。

これは、イスラームの諸問題の正しい理解が21世紀の人類につきつけられた最重要課題になったことを意味している。従って、本プログラムの立ち上げに際し、この切実な人類的課題に関して、東アジアにおけるイエズス会系大学としての本学が、欧米やイスラーム諸国の理解とは異なる日本的、アジア的観点からいかなる貢献が出来るか、ということを追究すべき基本理念として掲げた。

研究の骨組みは、従来の上智大学アジア文化研究所が培ってきた中東、東南アジア、南アジアの地域研究の方法と成果を、イスラーム研究の場に転移、発展させることである。その手法・目的は、第一に近現代イスラームの政治的側面に関心が集まりがちであった近年の研究動向に対し、政治運動の背景にある、より多様なあり方をも示す社会運動、民衆運動の側面に注目した研究を行うことである。第二に民衆性に着目したイスラーム研究に力点を置き、歴史的視点をふまえつつ、地域間、多様な学問分野間の比較と協働を推進することである。第三に、中東・北アフリカから東南アジア、さらに欧米・アフリカまでを結ぶ研究者ネットワークを創出することによって、グローバル化とイスラーム地域研究の関係性を追求する研究拠点を形成することである。

3. 研究グループと研究課題

(1) 「イスラーム主義と社会運動・民衆運動」代表・私市正年

イスラーム諸国における民主化（およびその反面における暴力）という重要な課題と結びつくイスラーム主義運動、社会運動、民衆運動の三つのファクターの関係性、さらにそれらの経済開発や社会開発との関連の分析を行う。民主化論や市民社会論のイスラーム世界への応用に関する従来の研究はもちろん、近年米国等で萌芽がみられる公共圏理論の応用なども吟味し、新しい理論構築を目指す。実際的な問題としても、イスラーム主義運動の終局の形態と、「原理主義」後の新しいイスラームの形を検討することはきわめて有用である。

社会学者、政治学者などの実証研究に、歴史学者による史料研究を加え、共同の現地調査等によって、地域間比較を行いつつ研究を進める。

「現代イスラーム世界の動態的研究」の後に、平成 14-16 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 「現代イスラーム地域における民衆と宗教運動の総合的比較研究」(研究代表者：私市正年) 平成 14-18 年度 21 世紀 COE 「地域立脚型グローバル・スタディーズの構築」研究プロジェクト II-1 「イスラームをめぐる宗教紛争・地域紛争と民衆運動の研究—二項対立論の克服に向けて」(コーディネーター：私市正年) などによって継続されてきた共同研究を発展的に継承する。

研究会を恒常的な研究活動の中核において、年度ごとに中心的な研究主題を決定し、共同現地調査を毎夏に実施する。研究蓄積に応じて、国際ワークショップ等を組織する。

(2) 「東南アジア・イスラームの展開」代表・川島緑

従来、ほとんど研究がなされてこなかったアラビア文字表記のマレー語であるジャウィについて、先の「現代イスラーム世界の動態的研究」に始まる先駆的な研究を基礎として、ジャウィ文書資料の広範な調査収集を行い、それらを用いて、東南アジアにおけるイスラームの展開について研究を行う。

あくまでもジャウィ文書研究を基盤とした実証的な研究の蓄積を主たる目的とするが、東洋文庫拠点や早稲田大学拠点とも連携しつつ、東南アジア地域内でのつながりや差異、南アジアや中東など域外との関係に注意を払い、各地のイスラーム運動やイスラーム民衆文化、イスラーム思想、エスノヒストリー等に関して研究を積み重ねる。分担者による現地調査や文献収集を活発に実施し、それに基づく研究発表を中軸に、シンポジウム、論集刊行などに取り組んでいく。

平成 14-15 年度トヨタ財団研究助成「東南アジア海域世界のジャウィ・ネットワークに関する基礎的研究」(研究代表者：川島緑) などによって継続されてきた共同研究を発展的に継承する。

研究会と研究合宿を研究活動の中核において、年度ごとにとくに重点を置く主題を決定して取り組み、随時に成果を公開していく。

(3)「スーフィズムと民衆イスラーム」代表・赤堀雅幸

スーフィズムや聖者信仰などは、研究の主題としては一般的でありながら、これまで十分に理論的で体系的な検討を加えられてこなかった。この点について、分担者たちがすでに加えてきた批判を発展させ、「スーフィズム・聖者信仰複合」とでも呼ぶべき現象に関する新しい共同研究の形を追求する。本研究グループは、この主題をスーフィズム、聖者信仰、タリーカ、預言者一族崇敬の四つの大きな現象の複合として捉え、それらを広範囲に再考して理論的再検討を加えて、より総合的な理解を目指す。

思想研究者、歴史学者、人類学者の協働の下で研究会を積み重ね、国内外での部会形成による成果発表、学術誌での特集、さらに日英語による論集等の刊行を重ねていく。またこの分野で日本と並んで先進的な共同研究を展開しているフランス CNRS 等との協力を深める。

平成 14-15 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「東アラブおよびトルコにおけるスーフィズム・聖者信仰複合の学際的研究」(研究代表者：後藤明)、平成 16-18 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「人類学・歴史学・思想研究の共同によるスーフィズム・聖者信仰複合の構造研究」(研究代表者：赤堀雅幸)などによって継続されてきた共同研究を発展的に継承する。

研究会と研究合宿を活動の中核において、年度ごとにとくに重点を置く主題を決定して取り組み、随時に成果を公開していく。

4. 展望

上述のように本研究プログラムは、わが国にイスラーム地域研究拠点を構築することを目的としている。従って通常の科研費プロジェクトとは異なり、研究期間の満了をもって活動が終了するのではなく、恒常的な研究活動の組織化が期待されている。そのために、今年度(2008年度)より5年間(2013年3月まで)の予定で、本プログラムに対し、文部科学省による「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」の研究助成がなされることになった。本プロジェクトは、私立大学版の全国大学共同研究利用機関の設置(共同利用・共同研究拠点の構築)を意図し、文部科学省と委託契約を結ぶ形で研究がなされることになっている。上智大学も去る8月に文部科学省と委託契約を結んだ。

このように本イスラーム地域研究は期間が長く、かつ施設・人員整備などにも関わるので、克服すべき課題はたくさんあるが、その重要性を考慮するならば、目標の実現に向けて努力をしていかななくてはならないだろう。